

令和7年度全国学力・学習状況調査 美唄市内の状況及び今後の改善方策

小学校数:2校、児童数:86人 中学校数:2校、生徒数:94人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

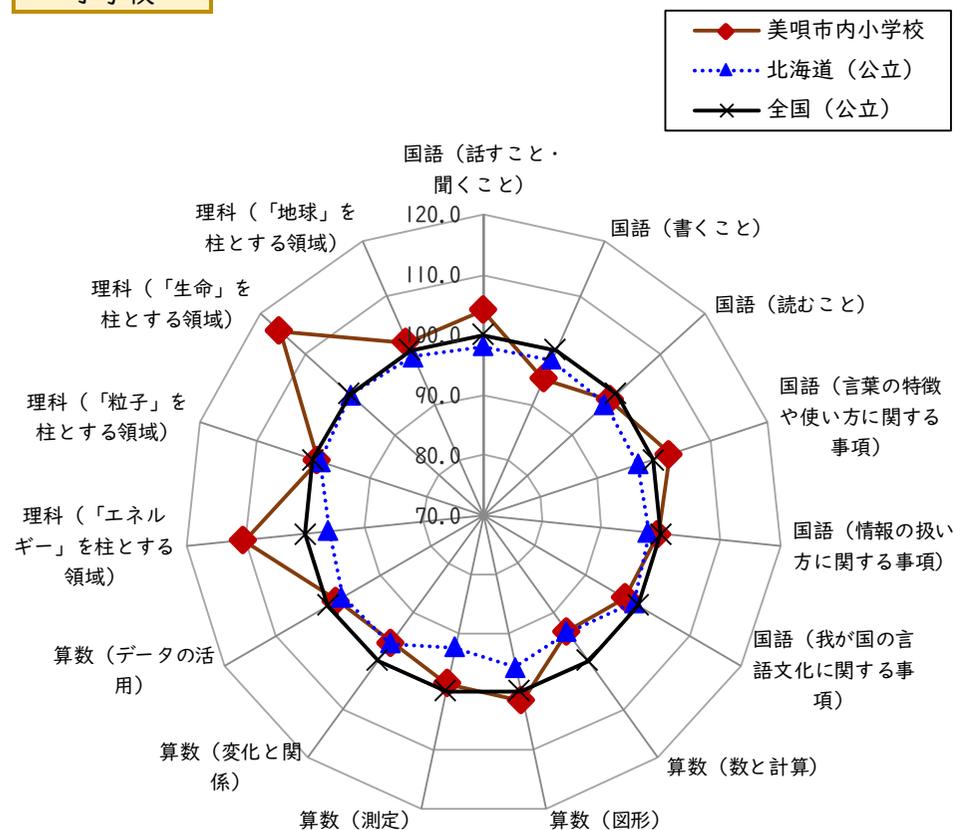
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したのもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

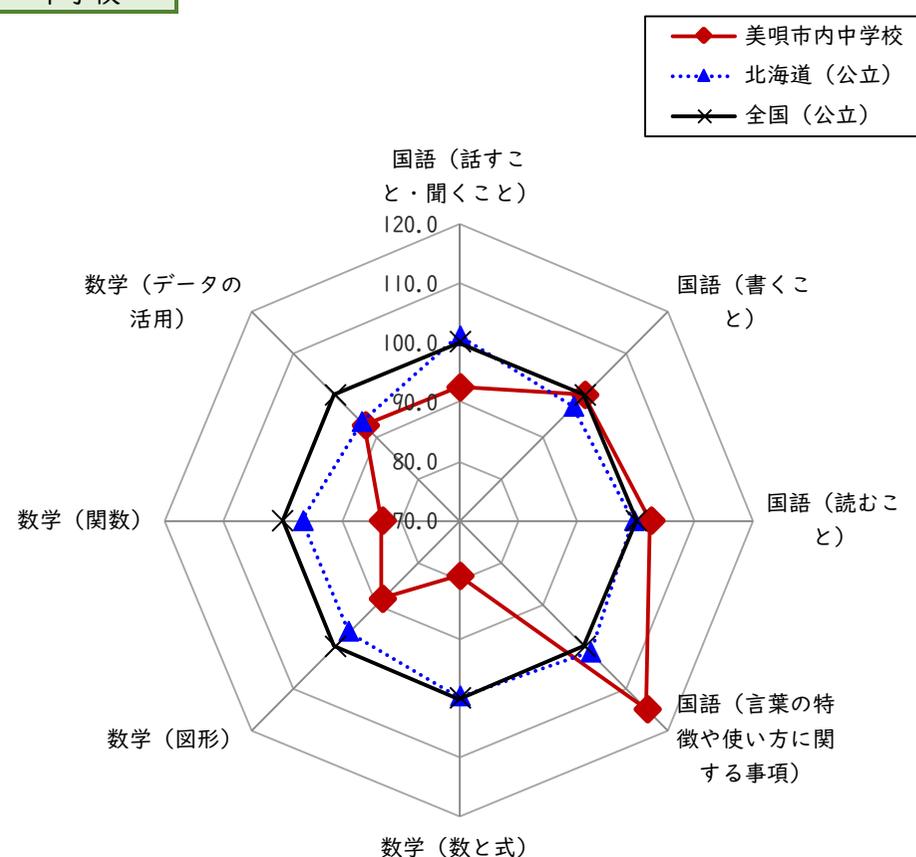
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
美唄市	67	57	61	54	41	508
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

小学校



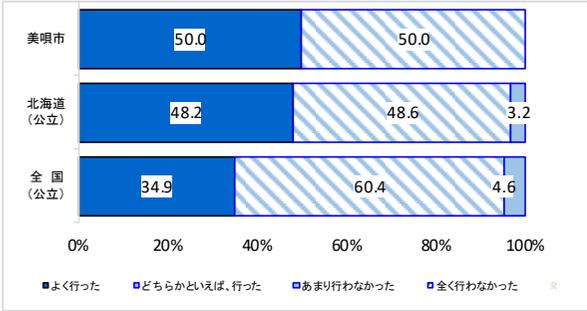
中学校



○ 質問調査の状況

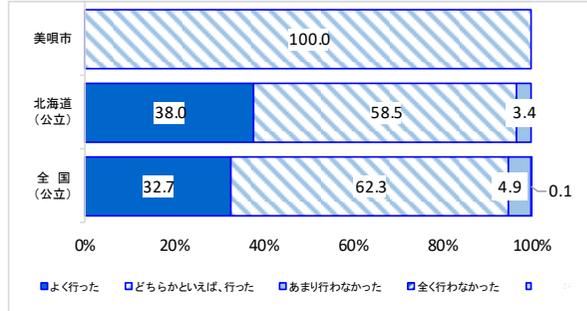
小学校 <学校質問>

前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるよう学習課題や活動を工夫しましたか



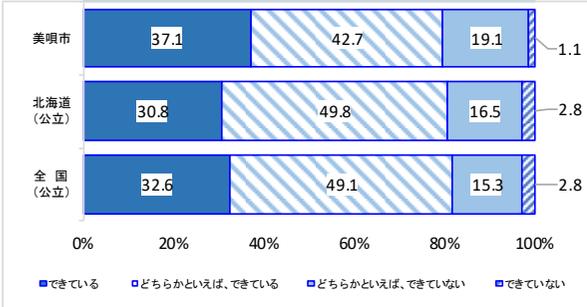
中学校 <学校質問>

前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるよう学習課題や活動を工夫しましたか



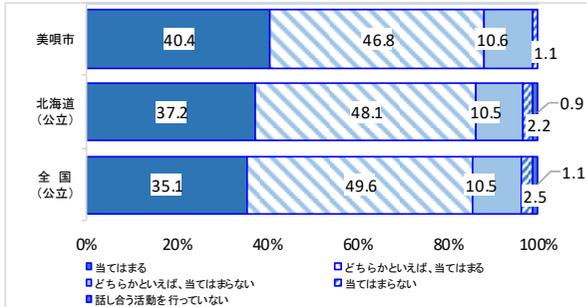
小学校 <児童質問>

分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することができますか



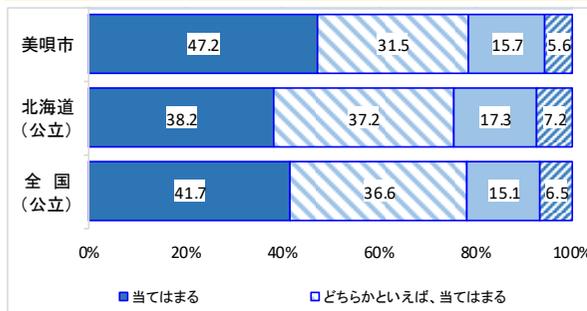
中学校 <生徒質問>

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



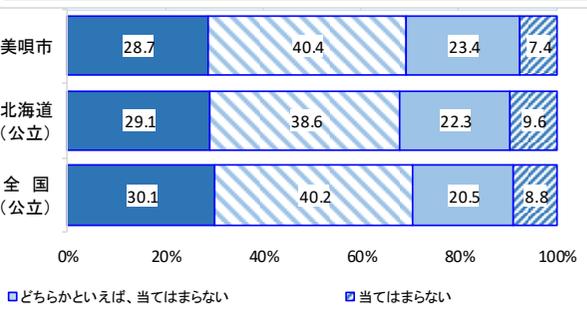
小学校 <児童質問>

算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校 <生徒質問>

数学の授業の内容はよく分かりますか



○調査結果の分析

- ・小学校において、児童同士が話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるよう学習課題や活動を工夫したことにより、分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・中学校において、生徒同士が話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるよう学習課題や活動を工夫したことにより、話し合いを通じて自分の考えをまとめたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・算数[数学]の授業内容はよく分かると回答した児童生徒の割合は、小学校では全国を上回り、中学校ではほぼ同様である。しかし、算数及び数学の平均正答率は、全国を下回っている状況であり、学習内容の定着が課題の一つとして考えられる。

○今後の改善方策

- ・小・中学校の管理職と教員で構成する「学力向上プロジェクトチーム」による「確かな学力育成プラン」の作成とその活用による指導方法の改善、および学習内容の定着に向けた取組の推進
- ・「家庭学習の手引き」や中学校区における「家庭学習強化週間」設定による、家庭と連携した学びの習慣化を図る取組の推進
- ・児童生徒の多様な実態に応じる ICT 端末を活用した学びの推進、および ICT 端末を効果的に活用する授業づくりに関する研修会の実施